



子言抄

四



特
遠
1728
3



18
1728
3

通變胡扁竹卷之四

隠者いんげの情けいが放蕩ほうたうして仇讐あいつ師しとらの風流ふうりゅう附つを付
べし又また是こゝ居るの知ちとん又また是こゝ人ひとの心こゝろゆり一いつ糝せのせに云
次つぎの仕し種しゅ之の嗚な呼こ糝せ法ぽうをよんん一いつくく亡なびび子こ人ひとの世よに
みまが七月しちがつ二に京きやうへ送おくる火ひけ大おほ文字ぶんじをよんん一いつくく一いつくく一いつくく一いつくく一いつくく
じらやちや一いつ我がとんくく茶ちや房ぼうゆり一いつ朱しゆ奪だつ一いつ世よの
賊ぞく多おほしとん此こゝ茶ちやの湯ゆを死しぶ所ところとん雜ざつ荒あつれ者ものもれ雜ざつ免めん

とせくちうしん。はちちうともおりのる。まゆやと三陰
 ー合せしん。高賣性来ーしゆー付て。京車ーし
 可しん。その者賣性来も。之世孫の。一牧記純や。
 まし。脈海又馬れん。びを志免上より。去増各佛一
 とんが。あつこは免白。味増城く。兒も。まていんこ
 ぶりりて出来だ。て。あつこ。が。おと。手兒。車と。る。の
 なるど。おりひ。は。兒が。孫。な。れ。だ。は。免。白。れ。罷。の。ご。と。だ。又
 くと。い。師。の。は。ち。ち。る。む。り。る。月。立。派。是。ハ。大。所。と。ら。る。が

は。似。あ。の。後。か。その。なり。ば。と。ば。社。い。ご。ら。れ。か。白。合。と
 い。を。さ。る。り。ら。か。折。白。は。さ。る。足。を。等。類。の。白。を
 い。と。い。く。を。後。よ。と。る。と。か。い。ん。ぞ。その。ため。れ。家。道。よ
 あ。と。げ。や。博。く。見。る。気。億。一。古。今。よ。と。り。て。此。の。白。ハ
 批判。で。ぶ。け。や。お。ち。も。新。神。小。名。号。は。修。り。を。修。り。の。こ
 唯。時。の。具。う。は。び。ん。ど。や。ぶ。け。う。ナ。七。文。ま。れ。申。り。云。ふ。ん
 の。出来。ん。や。と。れ。せ。よ。と。も。我。故。急。へ。白。れ。衆。と。さ。る
 等。より。は。さ。る。く。修。り。入。る。う。ん。と。正。風。弟。古。れ。格。云

花入家
卷之四



吉倉圖



向あが病を徒と終る。継一なる。ま今れ仇踏の上よと
 下よとは向外れ若あしはうべ。唯よく人の主化は伏
 とばいとよまか。人の和のが死系通と。向がとよでも。仇
 踏を下もかり。そく切云令色しわ向遠者なりば。
 仇及も出ぬけらる。終る。とびじし。と亡者とりあむ
 導師の墓を終る。棺もむじり。引導をれしと
 うやすしに。今も一神引導終る。引導。まかともるが
 仕組よりなりし。はなりての亡者。な令れと終る。ら向と

せしむくひれ来りしなげべ

陰陽師身はくあぶとといひ流これかどまのあたと
 をばしともあたま。化の若凶禍福を並し相をば
 事とたのれくして。世とともび人くし。似ちおれひひ
 へ者飛りし。まどくつ。まばい。ああ。げとば。これとあむ。
 ねと此人相を見て入歯をばり。方より。まばく。人相が能く。あむ。ゆと
 ねお。病ひ。あを。ばり。り。入歯。く。人相が。能く。あむ。ゆと
 是も来がし。たくと。流經の。度。れ。侍を。敵討。は。あむ。力

二たのじぢぢかりのなるべし。天然生ぬれの代に物あり
ねむ。相と物ぬのころ。食味れたよりにもおぼやうべ。
元来我眼刀で判びと信でもなく。定彦びと見り
内定これ。足来れぬが化来お續。又の肩間のおろ煙の
あぶかど。津比の刀をれ依助んでをかいがもても
ひでもかほとゆふふからくると。まれおしてれ俗おど
おまじまじ。況清て我とわがあぶか先りはかては状
さん。トクシの柏子の黒栴子ののちこ。味おぼくもか

全神まよひくくして書ひ。来をり。左破はぐく。成て
後が異杉のさすた我。えくこれとねとらね。あどくと
おぼくころへ。件の相者ととま。邪が付入。晩年を
ようごさば。又書命もか。りかど。たのき。ひゆら
有たき。きんぐ。二門はてか。ぎ。おま。おけり。身
はくア。か。う。世。ひ。く。ぼ。く。素。け。り。ぢ。ぢ。く。と
ら。の。き。く。あ。く。舟。も。は。の。り。と。能。あ。ん。で。も。先。生。と。骨。の
安。那。の。清。玄。法。屋。の。来。来。お。や。と。を。た。ん。ま。じ。り。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ



して雇人やうどをたつても。見てそふてうらまふつもの。又い
 先生せんせいも百々ひゃくれすらりに埒ひとく。むはまどう云うけ。
 ちと出浮でいくはむと。置ひのうらうら夜よはどあり
 うらうらうらうらにと。おはかどこ人おるで。身みは人の
 志こころはね苦。長なが責せ望ぼうでひはよめたとのど。一いつ采さい乃
 陳ちん博ぱくと。げ道の先遣せんせん人おはが。初はつ末まつのみと。むの
 足あしうらひ物ものおと。書かはされに。今いまとをけら引ひく。
 彼俗あまぢおらう。れおとと。波なみ檢けんり。けと。も拙せつ者しやが。り

秋あき毫ごも遠とほすせぬと。出で次じ才さいと。云い暮くらう。禮らい足そく朱しゆはし。
 又見てそふいふ人ひとと。おんぞよひものでもりふ。初はつり。
 こぞいづ門かどり市いちと。おんも又いづり。叔しやく人にんお着きれ會あひと
 いふのもうけおとね。先まへ初はつお才さい子こが。元げん服ふく天てん定ぢやうれ根ね附つ
 足あしが。く。名な種しゆや蒲ふ固この。り。英えい。法はふと。とらり。
 次じ才さいよ。可よ否ひをの。らう。と。見みて。世よう。人ひとと。結むす縁縁で。親おやと
 ち。い。づ。と。遠とほく。り。換かの。ゆ。ぬ。出で入い。又。遠とほく。
 ぐ。大だい勢せいの中ちゆうで。う。び。ぶ。か。く。と。お。や。う。か。ら。の。い。ん。

